

郡司ひさ系奨学生 2019 在学生の近況報告

19 期生

理学療法士の国家試験を意識して勉学励む

大阪府内の私立大学3年生になった男子学生

大学2年次の課程が終了しました。2年次全体を通しては、1年次の基礎的な内容を理学療法分野に応用する内容の授業が多く、一つ一つの授業の内容が難しくなりました。アルバイトの時間を減らし、勉強時間を増やすことで2年次は少し成績が上がり、納得のいく成績を収めることができました。また、学校での学習以外に4年次に受験する国家試験の対策、実習のための復習を行っています。国家試験の対策では、テキストを購入し早期から対策をすることで4年次の学習時間を他の分野に有効活用できると考え、継続して行っていこうと思います。目標は来年の模擬試験で国家試験合格点(全体の6割の点数)に達することです。実習前の復習では11月に控える実習で学びを充実させるためにこれまでに習った理学療法の検査評価方法と基礎知識の復習を行っています。11月の実習では理学療法を行う前に患者様の全体像をとらえるための検査、評価を中心に実際に行い身に付けることが目的で、先生方、先輩方に話を伺うと一番厳しい実習と教えていただきました。そのため万全な対策を行い、有意義な実習を迎えたいと考えています。

私生活ではスーパーでのアルバイトを継続しています。大学卒業後を見据えてこまめに貯金をすることを意識しています。3年生は実習などでアルバイトに入れない時期があるので今年は自炊を増やし無駄遣いを減らすことを目標にし、生活していこうと考えています。

また、3年生は就職に向けた活動を積極的に行っていきたいと考えています。学校のテストや実習の対策だけでなく、自分が目指す病院への就職に必要な幅広い疾患の知識やリハビリの技術を身に付けること、就職見学候補の病院を見つけておこうと思います。これからも学校での学習に真剣に取り組み、理学療法士として必要な知識と技術を学ぶとともに、節約やアルバイトを継続して将来設計を進めていきます。

米国留学でマイノリティの立場を実感 思いを帰国後に活用へ

獨協大学3年生になった 臼井咲葉さん

いよいよアメリカでの留学生活も残り2ヶ月を切りました。日々、自分との戦いですが、まだネイティブと会話を十分に楽しむ余裕が出るほどペラペラ英語が出てこず、理想と現実の差を痛感しています。

最近、授業でマイノリティについて書くエッセイがあり、自分のアイデンティティについてじっくり考える機会になりました。日本から出たことのなかつ

た20年間はずっとマジョリティの立場だったので、そのことを考えたこともありませんでした。ここではアメリカ人もみんな親切に接してくれますが、自分が自分ではなく日本人としてしか見られていないように感じることもあります。今まで直接的な差別を受けたことはありませんが、私の英語力だけではなく、外見や考え方からなんとなく違うものとして見られているような、同じ土台で関わっていないような感じがすることがあります。しかし、アニメや漫画など日本の文化が好きな人も多く、日本人というだけで良いイメージを持たれることに初めは戸惑いましたが今はとても嬉しいです。

今まではずっと海外への憧れが強く、日本はあまり好きではありませんでした。しかし、アメリカで生活するようになりアメリカの良さも日本の良さもたくさん見つけ、今は日本が好きです。マイノリティであることに加え、言語の壁があるため日本語を話すときのように自分らしさを出せず、うまくコミュニケーションが取れないことも多く悔しいです。日本のように相手の気持ちを察することがあまりなくはっきり言わないと伝わらないなど、もっと自分のことを知ってもらいたいのにうまく自分を表現できずもどかしい思いをしています。マイノリティであることを楽しんでうまく生かしたいのですが、自分の語学力への劣等感を捨て切れなかったり、自分を責めてしまったりすることもあります。

しかし、このような経験は日本にいては絶対にできなかったと思います。日本に帰っても違う国から日本に留学している学生や、日本で働いている人たちも私のように同じような苦勞をしていることがわかります。少しの態度や一言で傷つくこともあるということもわかるので、海外から来ている人たちへの尊敬の気持ちを忘れてはいけないと思います。

これから中間テストや期末テストも近づいてくるので、日本に帰ってからの後悔を一つでも減らせるように気を引き締めて過ごします。

高齢者の患者さんばかり、老年看護を学ぶ必要性痛感

関東地方の県立看護学校3年になった女子学生

無事2学年を修了し、4月から最高学年になります。思い返せば、あっという間の1年間だったように感じます。

2年生では、脳神経病棟、消化器病棟、特養の3か所での実習を行いました。どの実習でも入院患者さんは高齢の方が多く、日本の高齢化の実態を目の当たりにしました。実習を通して、高齢者の理解を深める必要性が高まっていることを知り、私は看護学生としてもっと老年看護について学ぶ必要があると思いました。

休日は、友達と遊ぶことが多かったのですが、最近は天気の良い日に近所を散歩したり、銭湯に行ったりして、1人でゆっくり過ごすことが増えたように感じます。近所でも通ったことのない道を歩いて新たな場所を発見した時のワクワク感が楽しくて、散歩は私のマイブームです。

成人式で、地元の友達に会った時には、皆あまり変わってないという安心感

と、昔に戻りたいなという寂しさを感じました。今はそれぞれ学校や仕事で忙しいけど、また大人になったら、集まりたいなと思いました。

残り1年ですが、実習のほか、就職試験と国家試験が控えているため、これまでの2年間より一層勉学に励み、来年の今頃は看護師という夢を掴んでいられるように頑張りたいと思います。

悩む 10 年先の自分 とりあえず教員免許取得目指す

大阪府内の国立大学3年になった男子学生

12月で20歳になり、様々な書類が届くたびに「ああ成人したのだな」と感じることが多くなりました。今までは「周りの大人」に自分は含まれていなかったけれども、他の人から「大人」としてみられてしまうことがあると考えると、今まで以上に責任があるのと同時に、社会の一員として認められているように感じます。

大学生活も折り返し地点に差し掛かり、3年生であるということの重みをいろいろな場面で感じるがあります。今直面している特に大きな問いは「10年後どうありたいか」ということです。これは自分がどんなキャリアを築き上げていくのかということとかかわりが深いと感じています。2年生の間に、就職を意識しつつ様々な人の話を聞き、情報を集めるという機会が多くありました。外資系企業や公務員の話を知っていると、どの業界も一長一短であり、自分の適性や興味関心に最も合うことは何かということを分析していると、時には不安があり苦勞するように感じられますが、発見があり楽しく感じられることもあります。

塾でのバイトの経験や、それ以外にも個人的に受験のために英語を教えるのが好きだと頼まれた経験などがあって、教えることが楽しいと感じると同時に一つの能力ではないのかと感じることがあり、3年の後期から教職の授業を取り始めました。正直なところ自分には教員以外にもできることはあるのではないかと思うところもあるので、まだ教員になるという決心はできていないのですが、教員免許の取得にも力を入れていこうと思っています。しかし、まだこの時期では選択肢をなるべく狭くせず、自分自身の就職あるいは将来に対するイメージをよりクリアにしていけるような1年にしたいと思います。

バイトマネージャーになったことで社会経験積む

中国地方の私立大学3年になった男子学生

2年生の後期は短く感じました。今年、成人式を迎え新たな一歩を歩んでいます。20歳になってから日々、大人としての責任感を持つ場面が多くなりました。人生をサポートできるよう、社会福祉士と保育士の取得のために学業に精進しております。その日々の授業で一番に支えたい人は誰だろうか深く考えさせられます。休みの間は地元へ帰省するために半日以上かけて帰ります。その時間が長く感じ嫌な気持ちを抱くことがありますが、それでも帰省できる場所があり、自分の体が勝手に帰ると考えるとどれだけ親に支えてもらってきたか

強く感じます。一番に支えてあげたいのは親や子供のころから見守ってきてくれた身近な方だと思います。

学校生活では同級生が少なかったこともあり情報交換は薄れていましたが、先輩に情報を教えてもらい、日々の活動が意味のある行動に変えていくことが



できました。学業や将来願望の話をするだけでなく、バイト先で一緒に働くことで本当に助かったことが多くありました。今のバイトはただ働いてお金をいただくだけの形にならず、私がバイトマネージャーになったことで営業に対する責任を多く実感しています。バイトのポジションでは私が上だったとしても、バイト先の先輩方は付いてきてくれていることに感謝しています。私が就職する前にバイトマネージャーになったことで社会マナーや営業管理のスキルなど社会に通用することを身に付けたことに一歩前進したと実感しています。

新3年生では、実習が増え直接の行動で学ぶ機会が増えます。日々、短く感じますが、卒業までの短い期間を充実した大学時代にしたいと思います。そして、大学生活で身に付けたことを地元に貢献し、お世話になった方などに恩返しできるよう尽くしていきたいです。

※写真は、特技の三味線を弾く男子学生

公認会計士になるために一層の努力

北陸の公立大学3年になった男子学生

3年生になり就職活動も考えなくてはならない時期になりました。今学んでいる、簿記やマーケティング、金融論などを活かした仕事に就きたいと考えています。より興味を持つために今年の夏には実際にそのことを活かせる仕事のインターンシップや説明会に積極的に参加して行こうかなと思っています。大学での授業もそうですが今年の春から公認会計士の資格を取るために勉強に一層の努力をしたいと思います。頑張ります。

今年の春休みには三重県のナガシマスパーランドに行って来ました。絶叫系は無理だと自分で思っていたのですが、乗ってみると意外と大丈夫でした。楽しかったです。あと伊勢神宮にも行って来ました。神々しかったです。

1年の秋に始めた居酒屋のバイトは現在も続いています。先輩が卒業して今や教えられる立場から教える立場になり、責任も時給も多くなりました。やはり夜遅く帰宅することが多いので朝起きるのが今でも苦手です。施設にいた時は7時には起きるのが当たり前だったことが今思うとすごいことなのだと改めて実感しました。

「継続は力なり」という言葉は良い意味でも悪い意味でもあって、居酒屋を続ける僕にとってはポジティブに捉えると「夜遅くまで起きている能力が上達した」ということだと思います。こんな能力はいらないですが。

何より、支えてくれている皆様のおかげで毎日それとなく楽しいです。ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

施設でのアルバイト始める 職員の苦しさを実感

九州の国立大学教育学部3年になった女子学生

もう折り返し地点の3年生となりました。所属する子ども理解専攻もようやく4学年揃い、すでに和気藹々としています。研究室の配属も無事に決まり、自分のしたい研究に没頭することができます。私が選んだ研究室の先生は、引きこもりや不登校に対するケアを専門としています。私自身がそうだったわけではありませんが、他にも、自尊心を高めるケアや行動療法も専門の一つであるため、それが決め手となりました。先生は私が施設にいたことについて、とても前向きに受け止めてくださいました。教育学部にいるのに教職を志望しない理由や、私のバックグラウンドを知っている数少ない人の1人です。

約2ヶ月の春休みも有意義に過ごすことができました。あえて学園には帰省せず、SNSで近況報告を済ませました。父とプロ野球の春季キャンプにいき、2人でたくさんはしゃぎました。また、大学生になってから短期のアルバイトしかしてこなかった私が、ようやくちゃんとしたアルバイトを3月から始めました。大学と同じ市内の施設ですが、とても楽しくアルバイトをさせてもらっています。学園に卒園生として帰省して過ごすのとは全く違い、職員として幼児や小学生中心と関わるため、少し戸惑いもありましたが、いまさら前にいた施設の先生の思いも少しわかったような気がします。実際に責任のある立場として考えてみると、受け入れたくても我慢させなければならない場面がアルバイトである私ですら多くあり、正職員は毎日苦しいのじゃないかなと、ふと感じました。

3年生となり、実習に向けた指導案作成や注意点をメインとした授業に切り替わりました。小学校の学習指導要領の切り替わり時期に当たってしまい、どの部分がどう変わったのか、要領の変遷や指導案作成時の切り替えを覚えるのがとても大変ですが、私が小学生の頃と変わった部分を知るのが楽しくもあります。

Weekly Work Caféという大学が主催している、企業との雑談会に参加した際に知り合った先輩や後輩との交流もあり、とても充実した日々を過ごしています。企業側が感じている大学生に足りないものや、強みなど、大人のリアルな声を聞いて参考にしています。実習で忙しくはなりますが、スキルアップや趣味など、時間を有効に使っていきたいと思っています。

看護実習で初めて患者さんがなくなる 悲しさ超えて強い心を

九州の公立看護専門学校3年になった女子学生

2年生もあと少しとなりました。現在は、領域別実習という、今までより専門的な実習がはじまりました。7クールあり、2クール目が終わりました。やはり専門的な実習ということもあり、短時間で看護問題を見つけ、看護を展開しなければならなかったため、毎日苦戦していました。今回の実習で受け持ちの患者さんが亡くなりました。初めての経験でした。急なことでもとても驚き、悲しい気持ちになりました。看護師はこのような出来事があっても他の患者の看護もしないといけないため表情には出せません。心の強さと、気持ちの消化をして次に進まないといけないという厳しさを感じました。

実習が終わって次は卒業論文の作成をしています。受けもった患者さんの事例を用いて自分の行った援助の振り返りや疑問に思ったことの研究をし、解決に向けて取り組んでいます。慣れないパソコンを使い、慣れない文章でもとても苦戦していて、毎日きつくてつらくてやめたいと思う日もありますが、友達に愚痴をはいたり、先生に励まされ背中を押されたりして、頑張っています。

施設入所経験生かし 虐待された児童の看護を目指す

首都圏の公立看護短大2年になった女子学生

前期では再試をなくすという目標が達成され、このまま再試がなく校内順位を上げるという目標を設定しました。テスト前の勉強を始める期間を前回までは3週間前からと設定していましたが、今回は1ヶ月半前からテスト勉強を始めました。結果としては校内順位をあげる目標は達成されませんでした。成績を維持することは出来たと思います。反省点として苦手と感じていた範囲を最後に回してしまっていたことが挙げられます。また3学年では、ほぼ実習のみになってくるので、そういった行動計画はきちんと練らなければ、後の計画に影響してくると思うので気をつけていきたいと思います。

就職面では後期の教科にある小児看護方法で来てくださった外部講師の方の考え方に共感をし、自分の行いたい看護の方向性が定まりました。それは、私が児童養護施設に入所していた経験を生かし、虐待児や不適切な養育環境下にある子どもたちの支援を行いたいということです。春休みにはその方がいる病院のインターンシップに参加させて頂きました。他の病院のインターンシップも参加させて頂いたのですが、その病院のみ虐待児の話題が出され、病棟全体でそういった子どもたちへの看護を考えているのだと感じました。そこからその病院の小児科に勤めたいと思い、一段と看護への関心が増し勉学への意欲が湧いてきました。

現在はその病院が就職先第一志望として考え、就職活動を頑張っている行っています。それと同時に看護師国家試験の対策を行おうと考え、私自身の苦手としている範囲や領域を知るために、国家試験の過去問を解き分析しています。多くの問題に触れれば触れるほど知識が身につくと先生方から教えて頂いたもので、1日5ページを目安に問題を解こうと考えています。